

農林水産部

石垣統計情報出張所が出前授業を開催

石垣統計情報出張所（現：石垣統計・情報センター）では、子供たちの農林水産業に対する理解を深めるために、中学生向けのパンフレット「日本最南端・西端の農林水産業」を作成しました。このパンフレットは、八重山地域の農林水産業の概況のみならず、中学生への農林水産業に対するアンケート結果や一問一答、若者に贈る言葉「夢のある水産業を目指して（沖縄県漁業指導士：池田元）」「砂糖作りの歴史から学ぶサトウキビ生産（石垣島ファーマー代表：入嵩西正治）」を収録しています。

6月19日には、石垣市立大浜中学校の総合学習の一環として、2・3年生の約250名を対象にパンフレットの内容についてパソコンで説明する出前授業を行いました。中学生からは「さとうきびと水稻（米）はどちらが儲かるのですか」といった鋭い質問が出され、また、「今の石垣の農業等の状況をちゃんと知ることができたのでとても役に立ったと思う」「農林水産業は、ただ作物を作っているだけじゃないんだと分かった」などといった感想が聞かれました。

先生からは「パソコンを使いスマートで分かりやすい講演でした。質問形式で進めていったことも、生徒達の興味を引く工夫であったと考えます」の感想がありました。



財務部

【証券取引等監視委員会野田委員による講演会の開催】

証券取引等監視委員会では、個人投資家の保護を監視委員会の目標として掲げ、そのために個人投資家との連携、個人投資家の自衛努力の支援策として、個人投資家との意見交換会の開催を各財務局で実施しています。

今回、沖縄での開催を個人投資家との意見交換会という形式でなく、投資家教育という観点から、さる5月28日に沖縄大学で講演会を開催しました。

当日は、証券取引等監視委員会の野田委員により「証券取引等監視委員会の活動について」というテーマで監視委員会の活動状況、活動方針の説明、投資家が特に注意すべき取引についての具体的な事例を踏まえた講演が行われました。

講演会には、沖縄大学法経学部3年次のテーマ演習受講の学生を中心に、金融機関、一般投資家など約70名の出席者が熱心に聴講しました。

監視委員会として、大学での講演は初めての試みであり、今後、広島大学、神戸大学で講演会の開催を予定しています。



総務部

第3回国際会議等各種会議の沖縄開催の推進に係る現地連絡会議について

平成15年6月18日「第3回国際会議等各種会議の沖縄開催の推進に係る現地連絡会議」が万国津梁館で開催されました。

現地連絡会議は、平成12年6月の「国際会議等各種会議の沖縄開催の推進について」（閣議了解）に基づき内閣府に設置された「各省庁連絡会議」基本方針により、関係省庁出先機関、沖縄県並びに沖縄県内の関係機関の連携強化と国際会議等の受入の円滑化を図るため、平成13年1月に設置されました。

第3回国際会議は、イラク情勢の影響等により、国際会議の誘致に支障が生じないよう引き続き推進を図ることとした「第6回国際連絡会議」を踏まえ、現地の連携強化を図る目的で開催されました。

当日は、影山総務部長の挨拶の後、当局から「向こう5年間の国際会議等の開催計画」及び「各省庁担当者による現地視察・セミナーの実施」について、沖縄県から「最近の沖縄観光の現状」についての報告が行われ、会議終了後、万国津梁館の館内視察が行われました。



運輸部

陸運及び観光関係功労者を表彰

去る5月15日、沖縄ハーバービューホテルにおいて、関係者多数の出席のもとに、平成15年度陸運及び観光関係功労者の沖縄総合事務局長表彰が行われました。

本表彰は、県内において自動車運送事業、自動車整備事業等の陸運関係事業及び観光関係事業に従事する役員、従業員で、当該事業に対する功績が顕著であった者、また、永年にわたり業務に精励し、勤務成績が優秀な者に対し毎年行われるものであります。

今回の受賞者は、役員12名（トラック事業3名、自動車販売事業1名、自動車整備事業8名）、一般従業員4名（バス事業4名）、団体従業員1名（沖縄県自動車整備振興会1名）、運転者7名（バス事業2名、タクシー事業5名）の計24名の方に対し、局長から永年の功績に対する表彰状が授与されました。

また、受賞者代表から、なお一層業務に精励し、社会の信頼に応えられるよう精進したいとの謝辞がありました。



開発建設部

水源地ミュージカル「リバーヘッド」を開催

6月4日～6日の3日間、沖縄本島内3主要都市（沖縄市・那覇市・名護市）で水源地ミュージカル「リバーヘッド」沖縄公演を実施しました。

このミュージカルは、水源地と消費地の人々が一緒に「水はどこから生まれるのか」「水を守るのはだれか」などを楽しみながら学び、そして「水の大切さ」について改めて考える機会になれば誕生したミュージカルです。

当日の来場者は3会場とも約1千名程度の皆様にお越しいただき、名護市民会館では立見が出るほどの大盛況でした。

公演では、小学生の子供達からおじいさん・おばあさんまで幅広い年代層の皆様にミュージカルを楽しんでいただき、「感動した」「水の大切さを改めて感じた」「このような機会をまた楽しみにしている」などの言葉が多く聞かれました。

“アマダイミジ ヤショウコ チケイ
“雨垂水は醤油使(い)”
の精神を忘れずに、今後とも多くの手段を使って県民の皆様と協働し「水を大切にする社会づくり」を目指して行きたいと考えています。

沖縄のことわざ：意味 [雨水はいつでも降るものでなく、日照りが来ないと限らないから醤油を使うようによくよく用心し、大切に使わなくてはいけない] という戒めの言葉。



経済産業部

沖縄デジタルアーカイブ「Wonder沖縄」運用開始式典

沖縄が有する豊かで魅力ある風土、文化遺産等の情報をデジタル保存し、インターネット等により情報発信を行う「沖縄デジタルアーカイブ Wonder 沖縄」運用式典が、去る6月10日、北谷町美浜メディアステーションにおいて、沖縄県知事をはじめ内閣府や経済産業省他から多数の来賓を迎え挙行されました。

本事業は、沖縄の様々な情報をデジタル保存し、次代に継承することを目的に、歴史、自然等6分野のエレメントコンテンツ（各分野の情報）及び世界遺産、沖縄の自然、海底遺跡の3分野からなる大規模展示用コンテンツ等をインターネット、DVD、大規模映像展示システム等で提供するものです。これは、総Web数1万ページ以上、高精細デジタル映像10時間以上にもなり、制作には、延べ500名以上、81社（県内企業57社）が参加しました。今後、内外に向けた沖縄のPR効果が期待されるところです。

なお、Wonder沖縄は、6月10日よりインターネット（<http://www.wonder-okinawa.jp>）で配信され、大規模展示用コンテンツは、北谷町メディアステーション内スタジオ、首里城公園レストセンター、銀座わしたショッピングにおいて上映されています。

